

第2回 国道229号乙部町館浦地区斜面对策技術検討会 議事概要

■ 第2回検討会：令和3年8月3日（火）9時00分～11時00分

【議題】

- ・ 第1回技術検討会の概要
- ・ 第1回技術検討会を踏まえた追加調査結果
- ・ 現況斜面の評価
- ・ 応急対策について

【議事概要】

○事務局より第1回技術検討会の概要、第1回技術検討会を踏まえた追加調査結果、現況斜面の評価について説明し、委員より以下のとおりご助言をいただいた。

- ・ これまで行ってきた調査や今回の追加調査結果等を用いた解析、検討から導き出された現況斜面の評価について、今回の岩盤崩壊と同等規模以上の崩壊が懸念されるという評価は妥当と考えられる。
- ・ 崩壊メカニズムは、過去の地震、凍結融解、乾湿繰り返し、スメクタイト（膨張性鉱物）等が亀裂・開口亀裂の進展に関与したという推察は妥当と考えられる。
- ・ これまでの現地における亀裂性状調査やその分析により、斜面の評価ができるようになったと考える。例えば、降雨後の壁面状況の比較から湧水を伴う軟らかい箇所での新たな剥落が認められる。乾湿や凍結融解の繰り返しによって軟らかい箇所の崩落が進行し、開口した亀裂と内部で繋がると崩壊に至るなど、メカニズムが見えてきたと考える。
- ・ 降雨後の壁面の湧水状況に関する調査結果は、亀裂に沿った湧水痕、地層に沿った湧水痕が示されており、崩壊リスクを評価するにあたって貴重な記録であると考えられる。また、急崖部の植生繁茂は、そこに湧水があることを示唆していると考えられる。

○事務局より応急対策について説明し、委員より以下のとおりご助言いただいた。

- ・ 想定される崩壊規模を元に行ったシミュレーションからは、現道を用いた応急復旧対策では、崩落土砂・落石を安全に受け止めきれない。
- ・ したがって、現道を用いた応急対策工は、通行車両の安全性に大きな課題があり、早期の通行規制解除は極めて危険であり困難であると考えられる。
- ・ 岩盤斜面の対策を検討する際の難しさとして、突発性がある点が挙げられ、特に、通行止めを行う際の管理基準値の設定は極めて困難である点を考慮すべきである。
- ・ 不安定部（落ち残り部）の除去を対策として行う際には、10年後20年後に同じような崩壊が起こることが懸念されるため、除去した後に新たな緩みが発生しないよう対処すべきと考える。
- ・ 今後行う対策工の詳細検討にあたっては、安全性、工期、費用等を総合的に判断して決定する必要がある。